

平成25年度沖縄群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平 年 並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成25年8月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

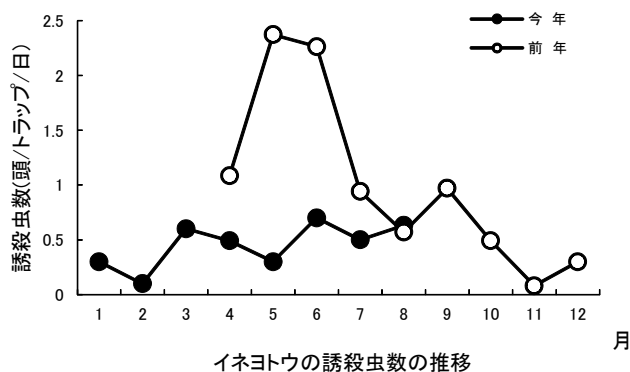
	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	27.6	30.4	25.5	260.5	188.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

- イネヨトウの防除対策
 - a 8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.6頭(前年0.6頭)であった。
 - b 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 本号コラム「新植夏植におけるイネヨトウの防除対策について」(p14)参照。

2 かんきつ(シークワサー、タンカン、温州みかん)

(1) かいよう病

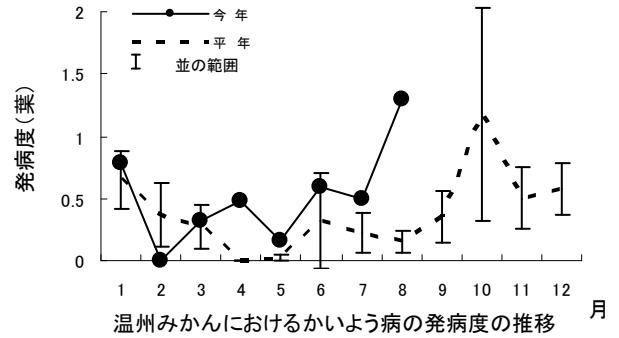
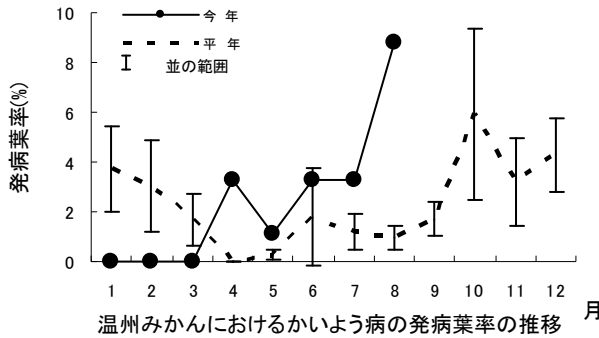
発生程度 : 多

予報の根拠

a 8月下旬の調査の結果、温州みかんにおける発病葉率は8.8%(前年0、平年1.0%)と平年より高く、発病度は1.3(前年0、平年0.2)と平年よりやや高かった。

b 果実における発生はみられなかった。

c 病害虫防除員からの報告によると、発生程度はタンカンにおいては中、シークワサーにおいては少であった。



<防除上注意すべき事項>

a 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。

b 台風通過前に薬剤防除を行うと効果的である。

○ ミカンハダニの防除対策

a 8月下旬の調査結果、タンカンと温州みかんの一部園地において発生がみられた。

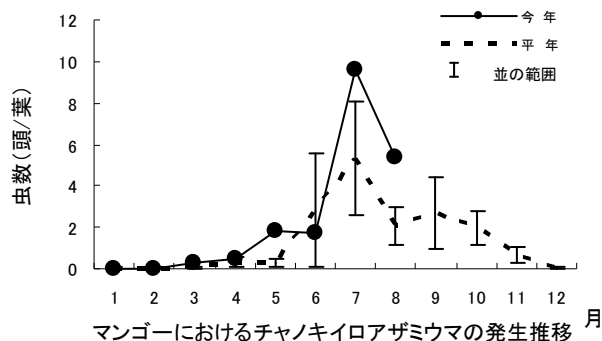
b 病害虫防除員からの報告によると、発生程度はタンカンにおいては多、シークワサーにおいては少であった。

c 本種は夏～秋にかけて、発生が多くなることから、薬剤による防除を徹底する。

3 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ
発生程度：多
予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は5.4頭(前年3.1頭、平年2.1頭)と平年より多かった。

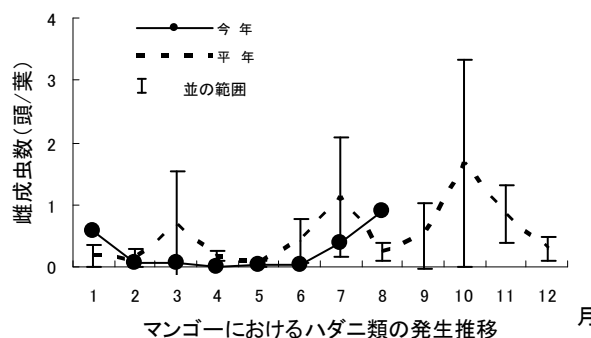


<防除上注意すべき事項>

- 収穫期に発生の多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- 剪定後の新梢の発生が早い施設では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

(2) ハダニ類
発生程度：多
予報の根拠

- 8月下旬の調査の結果、葉当たり雌虫数は0.9頭(前年0.2頭、平年0.2頭)と平年より多かった。
- 発生していた主な種はシュレイツメハダニであった。
- 沖縄地方の1か月予報(8月23日付)によると、期間の前半は小雨の傾向が続く見込みとのことなので、本種の発生に好適な条件が続くと考えられる。



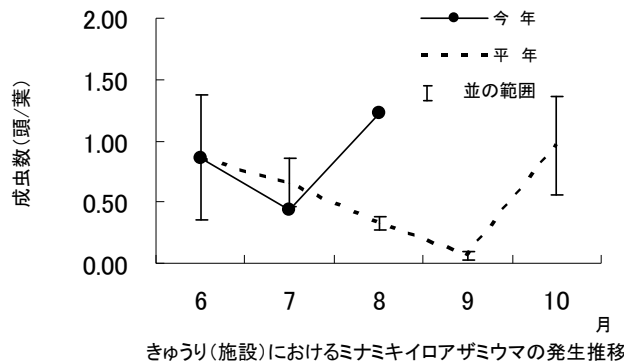
<防除上注意すべき事項>

収穫終了後に発生が多くなるため、発生がみられる場合は薬剤による防除に努める。

4 きゅうり(施設)

- (1) ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : 多
予報の根拠

8月下旬の調査結果、葉当たり成虫数は1.22頭(前年0.44頭、平年0.32頭)と平年より多かった。



きゅうり(施設)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

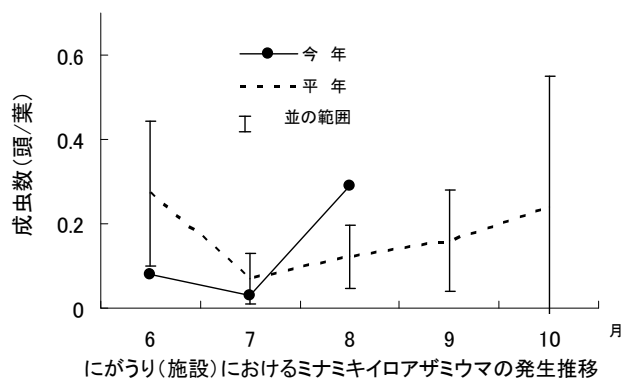
<防除上注意すべき事項>

- 本種は灰白色斑紋病や黄化えそ病の媒介虫である。
- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- 摘芯や摘葉後の残渣は、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 にがうり(施設)

- (1) ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : やや多
予報の根拠

- 8月下旬の調査結果、葉当たり成虫数は0.29頭(前年0.04頭、平年0.12頭)と平年よりやや多かった。



にがうり(施設)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

<防除上注意すべき事項>

- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- 摘芯や摘葉後の残渣は、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

6 オクラ

- うどんこ病の防除対策
 - a 8月下旬の調査の結果、発病葉率は2.6%（前年0.8%、平年1.5%）と平年よりやや多かかったが、発生は一部圃場に限られた。
 - b 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せずビニール袋に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。